

令和3年度 札幌市ひきこもり地域支援センター設置運營業務

札幌市ひきこもり地域支援センター 事業実績報告書

公益財団法人北海道精神保健推進協会

はじめに

公益財団法人北海道精神保健推進協会(以下「当法人」という)では札幌市より「札幌市ひきこもり地域支援センター」(以下「当センター」という)の運営委託を受け、平成27年10月より、ひきこもり当事者や家族等からの相談を受けるとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民等に対する普及啓発などを行ってきた。

当年度の開所日数は246日(平日)と出張無料相談会が11日(土曜・日曜)あり、計257日となり、新規相談は280件であった。これは、新規相談は毎日1ケース以上の相談があったといえる。延べ相談件数は、令和2年度の2,575件から2,858件に増加している。新型コロナウイルスの影響から、相談を中止延期するケースもあったが、相談者の悩みが無くなった訳ではなく、情勢に関わらず年間を通じて相談があったと言える。

また、アウトリーチ支援は268件あった。令和元年度の118件、令和2年度の179件、と年々増加している。これは、コーディネーターが4名体制となった中で、ケースに応じて熟考し積極的にアウトリーチ支援を行った結果でもあり、親が高齢で当センターまで足を運べない、役所等への同行、一人暮らしへの準備等、個々のケースに応じた支援をした結果である。また、出張無料相談会は引き続き開催し、新規・継続相談者に関わらず、土日相談を設けるなど利便性を図った。※コロナのため会場が借りられず開催減となった

支援機関の連携については、令和2年度「他機関からのつなぎ」は66件から、当年度は99件となり、これは開所から6年経過し、ひきこもり第一相談窓口として周知がなされてきたと考える。また、既存の連絡協議会等を活用し、地域の関係機関(医療、保健、福祉、教育、就労等)との情報交換を行う等、各機関間で恒常的な連携が確保できるように努めた。状況に応じて、各支援機関へスーパーバイズ(指導・監督・助言)も行った。児童期に関しては、「さっぽろ子ども・若者地域支援協議会」のネットワークを活用した。

居場所「よりどころ」事業への相談員(専門職)派遣も継続し、「よりどころから相談へ」、「相談からよりどころへ」、親・当事者それぞれのケースで状況に応じて活用ができた。

相談支援の流れは以下のとおりになっている。

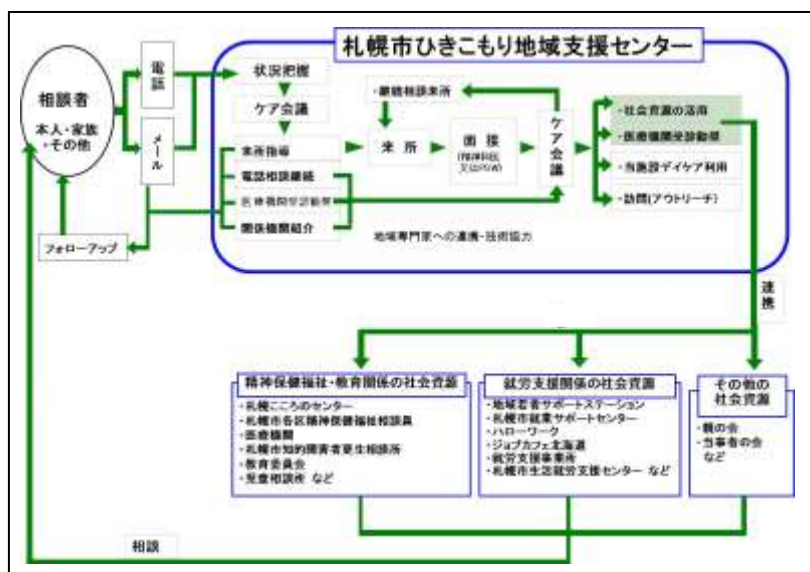


図1 相談支援の流れ

1. 相談支援実施状況

令和3年度の支援実績は以下のとおりである。

(1) 相談支援概要

ア. 相談件数 (単位: 件)

相談件数計	2, 8 5 8
新規相談	2 8 0
継続相談	2, 5 7 8

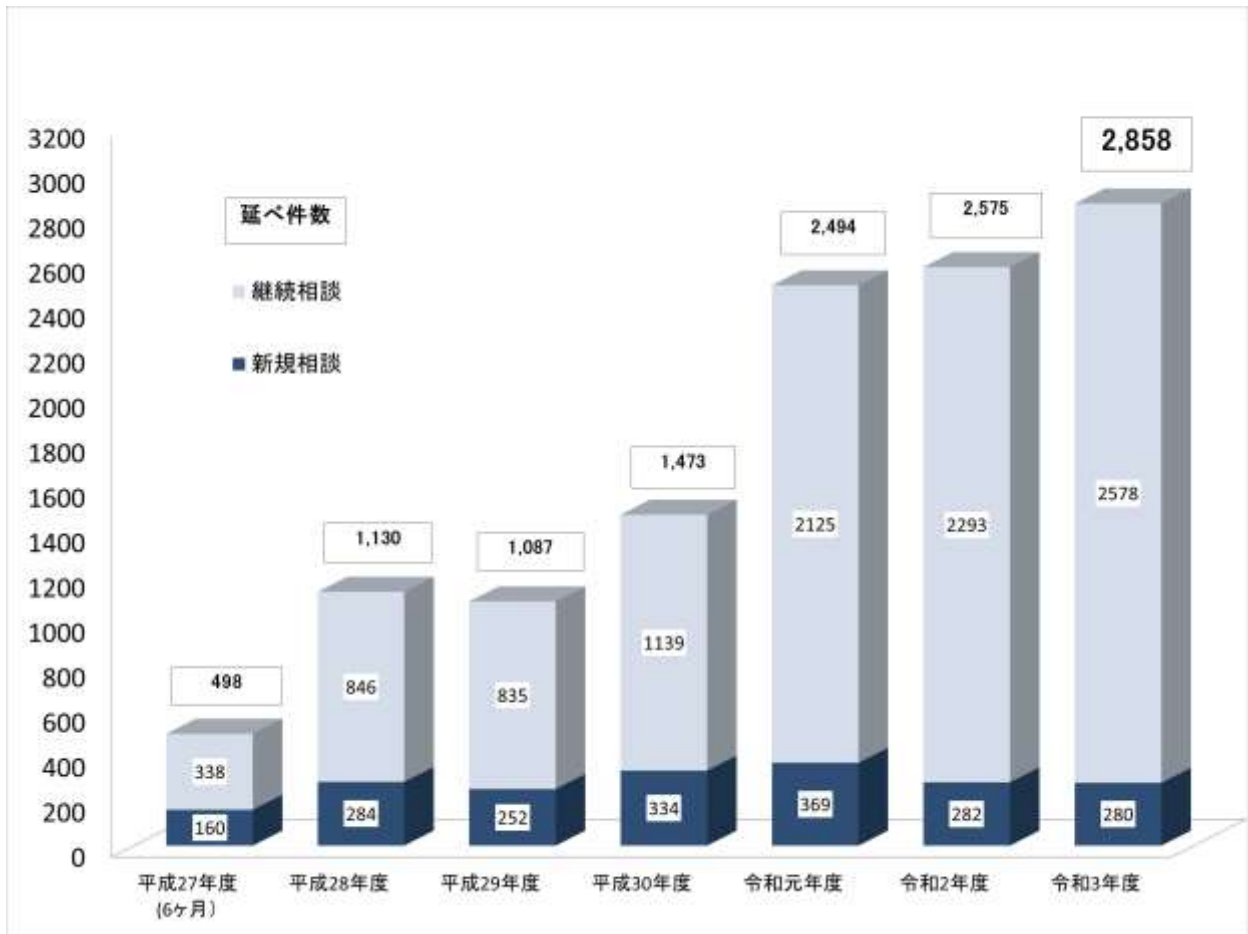


図2 相談件数の推移 (年度別)

○当年度の相談延べ件数は、2,858件であり、新規相談者は280名であった。昨年度と比較すると、新規相談件数は同程度となっており、継続相談は増加している。

○延べ件数を開所日数(257日:平日246+出張相談の土日11)で割ると、一日あたり約11.1件、相談を受けていることになり、令和2年度の一日あたりの件数、約9.8件より増加している。

イ. 相談方法別内訳

	新規	継続	総計	構成比(%)
電話	198	284	482	15.5%
来所	20	1,010	1,030	33.1%
メール	47	996	1,043	33.5%
アウトリーチ	4	264	268	8.6%
出張相談等	11	24	35	1.1%
小計	280	2,578	2,858	
連携	-	258	258	8.3%
ケア会議	-	-	-	-
総計	280	2,836	3,116	100%

- 新規相談では「電話」が最も多く、ついで「メール」「来所」の順に多い。
- 「来所」には、「ひきこもり外来」を含む。
- 「ケア会議」に件数を計上はしていないが、必要に応じて全ての相談ケースにおいて、日頃から各相談員同士で支援方法についてケース検討・会議を実施している。
- 「アウトリーチ（訪問支援）」については慎重に行う必要があり、本人及び家族へのアセスメントを十分に行ったうえで実施している。

開催区	件数
白石区	2
豊平区	2
厚別区	1
手稲区	8
清田区	2
中央区	3
東区	4
西区	4
南区	2
北区	7
その他	0
計	35

- 「出張相談等」の開催区と相談者の詳細は表のとおりである。手稲の相談者が一番多かった。
- 各区の詳細は15ページに記載する。
- 新型コロナウイルスの影響により、4月～9月まで区民センターの利用が中止になったため、出張相談を実施していない。
- 「白石区」については、さっぽろ若者サポートステーションとの合同事業説明会としても開催した（開催1回、相談者1名）

ウ. 相談時間

(単位:回)

	0~ 15分未満	15~ 30分未満	30~ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	149	198	117	18	482	176:29	22分
来所	64	141	379	446	1,030	832:30	49分
メール	797	181	58	7	1,043	223:25	13分
アウトリーチ		5	41	222	268	355:55	1時間20分
出張相談等		1	1	33	35	38:50	1時間7分
連携	155	58	18	27	258	79:10	18分
計	1,165	584	614	753	3,116	1,706:19	33分

エ. 延べ回数と実人数

1. 電話相談

延べ回数	482回
実人数	278名

2. 来所相談

延べ回数	1,030回
実人数	145名

3. メール相談

延べ回数	1,043回
実人数	121名

※延べ回数はメール受信及び返信の回数

4. アウトリーチ

延べ回数	268回
実人数	70名

5. 出張相談等

延べ回数	35回
実人数	30名

(2) 新規相談者の状況

ア. 相談者内訳

(単位:件)

	件数	構成比
本人	63	22.5%
父	20	7.1%
母	111	39.6%
両親	4	1.4%
兄弟姉妹等	58	20.7%
その他	24	8.6%
計	280	100%

- 「父」「母」「両親」「兄弟姉妹等」の相談が計68.8%となり、初めに家族からの相談が約7割ある事が分かる。「本人」からの相談も22.5%あり、全体の約2割となる。
- 「兄弟姉妹等」の内訳は、兄弟姉妹が39件、祖母、叔母などの親族が19件である。
- 「その他」の内訳は、他支援機関からのケース紹介、知人、友人等である。

イ. 相談方法別内訳

(単位:回)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	出張相談等	計
本人	37	7	18		1	63
父	14	1	4		1	20
母	88	6	8	4	5	111
両親		2			2	4
兄弟姉妹等	38	1	17		2	58
その他	21	3				24
計	198	20	47	4	11	280

- 新規相談に関しては、どの相談者においても「電話」が多く、次いで「メール」が多い。

(3) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満					0.0%
10歳以上～15歳未満	5	8	1	14	5.0%
15歳以上～20歳未満	26	19		45	16.1%
20歳以上～30歳未満	54	21		75	26.8%
30歳以上～40歳未満	35	11	1	47	16.8%
40歳以上～50歳未満	40	6		46	16.4%
50歳以上～60歳未満	14	11		25	8.9%
60歳以上	3	3		6	2.1%
不明	13	7	2	22	7.9%
計	190	86	4	280	100%

○当年度は「10歳未満」の相談は無かった。「20代」の相談は全体の約1/4を占めている。

○「40歳以上」以降が全体の約3割を占めており『ひきこもり』が若者だけの問題ではない事が分かる。

○最少年齢は12歳、最高年齢は80歳となっており、男性の平均は32.4歳、女性の平均は29.7歳、全体平均は31.5歳であった。

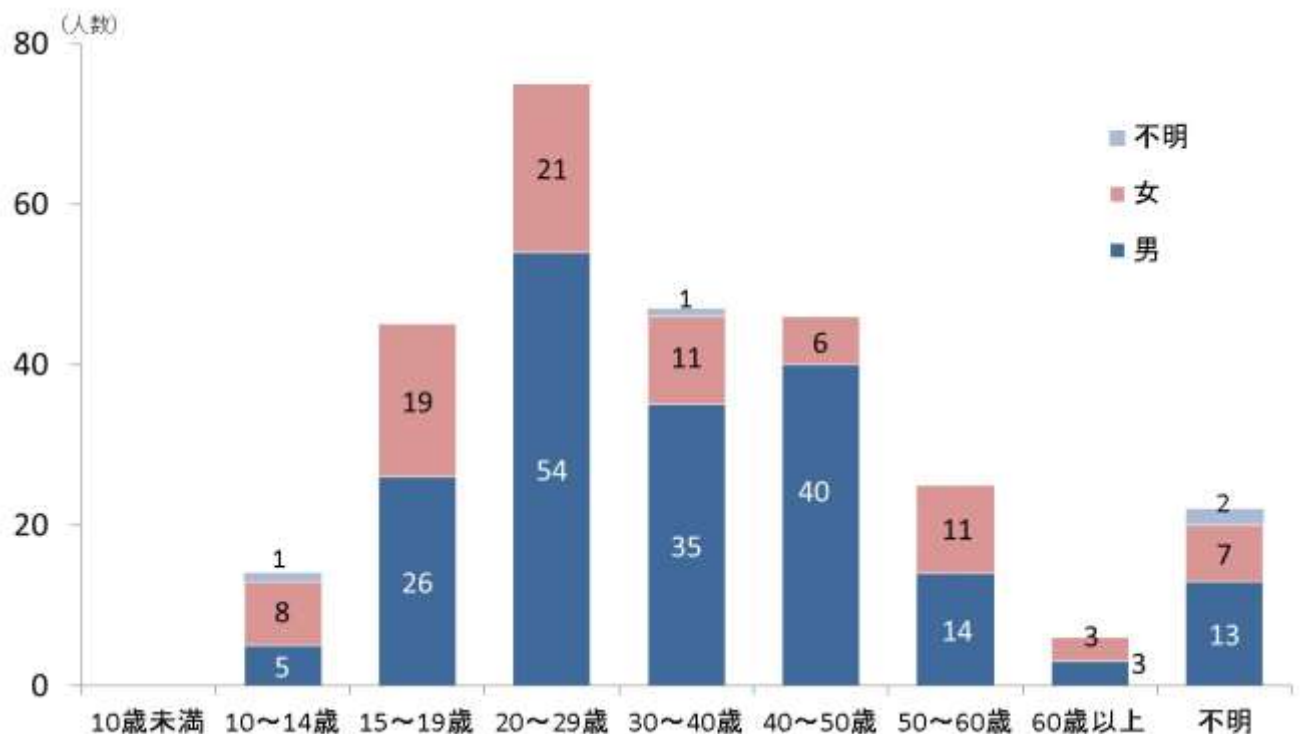


図3 当事者の年齢区分・性別状況

イ. 当事者の居住地区 (単位：件)

本人居住地	件数	構成比
札幌市内	47	16.8%
白石区	26	9.3%
豊平区	34	12.1%
厚別区	24	8.6%
手稲区	21	7.5%
清田区	10	3.6%
中央区	21	7.5%
東区	34	12.1%
西区	18	6.4%
南区	15	5.4%
北区	30	10.7%
計	280	100%

○当年度の相談のうち、「札幌市内」は相談の中で居住地区までは分からないが、札幌市内在住までは把握できた場合に計上している。

○件数では、「豊平・東区」、「北区」、「白石区」の順に多かった。

○各区からの相談が寄せられている。

(4) 相談目的

新規相談者の相談目的別状況

内容	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
近隣の相談機関紹介希望	9	9	12	7	14	9	10
親の会を紹介して欲しい	1	0	0	0	0	1	0
当事者の会を紹介して欲しい	3	0	0	1	1	1	1
医療機関を紹介して欲しい	5	3	9	11	11	7	7
家庭内暴力の対応	2	3	1	2	1	4	1
関わり方について	44	89	78	105	95	69	74
就労・就学について	14	35	22	28	40	13	24
来所相談の希望	16	44	31	36	41	24	18
今後の生活の仕方について	21	39	32	60	93	101	76
話を聞いてほしい	29	40	33	37	47	19	33
事業内容を知りたい	13	16	23	27	20	21	21
その他	3	6	11	20	6	13	15
計	160	284	252	334	369	282	280

○相談目的は多岐にわたっている。

○相談目的としては「関わり方について」「今後の生活の仕方について」の割合が依然として高い。

○「その他」には、「ひきこもり外来の希望」「訪問や出張相談の希望」、「他機関からの照会」などがあげられる。

(5) 他機関への相談経験の有無

(単位：件)

	件数	構成比
相談経験あり	128	45.7%
相談経験なし	8	2.9%
不明	144	51.4%
計	280	100%

- 把握できた範囲の件数。
- 当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が 128 件 (45.7%) であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが伺える。
- 「相談経験あり」の内訳は、医療機関(精神科・心療内科・児童精神科)が最も多く(97件)、学校:スクールカウンセラー・教育委員会(17件)、若者サポートステーション(12件)、区役所:保護課・福祉課(10件)、NPO・カウンセリング機関(8件)などがある。※1 ケースにつき複数機関に相談していた場合を含む。
- 「相談経験あり」のうち、すでに医療機関にかかっているケースが最も多く、診断名(精神疾患)が付いているケースもある。また、身体障害等により外出しない、頻度が少ないという「ひきこもり問題」とは別の視点での相談もあった。

(6) 相談の継続性

実人数(相談開始時期別)

	R3年度に 相談を開始	R2年度に 相談を開始	R1年度に 相談を開始	H30年度に 相談を開始	H29年度に 相談を開始	H28年度に 相談を開始	H27年度に 相談を開始	実人数	相談延べ 件数	当年度 以前の 相談者計
平成27年度 (6ヶ月)							160	160	498	—
平成28年度						284	57	341	1130	57
平成29年度					252	40	35	327	1087	75
平成30年度				334	33	25	29	421	1473	87
令和元年度			369	53	20	16	20	478	2494	109
令和2年度		282	65	33	13	12	17	422	2575	140
令和3年度	280	46	38	32	17	9	18	440	2858	160

- 事業を開始した平成 27 年度、以降の年度それぞれの相談者が当年度にも継続相談しているケースがある。就労・就学・医療などに繋がり、ひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰を把握することが今後も課題と考えている。
- 当年度の相談のうち、相談後の転帰として「居場所等外出の機会が増えた(16 件)、医療に繋がった(20 件:新規ひきこもり外来含む)、就労支援に繋がった(17 件、)就労した(10 件)」が把握できた限りにおいてあげられる。全てのケースにおいて、相談後の転帰を把握してはいないため、これ以外にも、就労・就学・医療等に繋がるなどのケースはあると思われる。

(7) 初回相談転帰

転帰	件数
終了	122
助言終了	(79)
関係機関紹介	(38)
その他	(0)
受診勧奨	(5)
中断	(0)
継続	158
電話・メール等相談継続	(111)
来所相談を希望・指導	(47)
総計	280

- 初回相談で終了したケースは 122 件 (43.6%) で、そのうち「助言終了」が 79 件であった。助言終了と判断した後も再度、電話相談等につながるケースもある。
- 初回相談で終了したケースには、「すでに医療機関に繋がっていたケース (主治医との関係に悩む、通院以外の外出が乏しい等の内容)」といった「ひきこもり」の相談ではないものもあった。
- 「電話・メール等相談継続」が 111 件、「来所相談」に切り替えたのが 47 件、計 158 件 (56.4%) が継続相談を要すると判断し対応した。

(8) 連携状況

他機関へのつなぎ	件数	構成比
札幌市各区福祉課	35	22.0%
札幌市各区・他市保護課	19	11.9%
不動産会社	18	11.3%
医療機関(精神科)	18	11.3%
若者サポートステーション	12	7.5%
民間企業	10	6.3%
就労継続支援A型B型移行支援	7	4.4%
札幌市ホームレス支援相談センター	5	3.1%
訪問相談室	4	2.5%
相談支援事業所	4	2.5%
包括支援センター	4	2.5%
NPO法人	4	2.5%
医療機関(他科)	3	1.9%
札幌市各区年金課	2	1.3%
訪問介護事業所	2	1.3%
社会福祉協議会	2	1.3%
公共職業安定所	2	1.3%
子ども心身医療センター	1	0.6%
札幌市生活就労支援センター	1	0.6%
北海道公安委員会	1	0.6%
日本学生支援機構	1	0.6%
札幌市精神保健福祉センター	1	0.6%
ひきこもり親の会	1	0.6%
児童相談所	1	0.6%
自閉症・発達障がい支援センター	1	0.6%
計	159	100%

他機関からのつなぎ	件数	構成比
医療機関(精神科)	15	15.2%
不動産会社	11	11.1%
訪問相談室	8	8.1%
札幌市各区福祉課	8	8.1%
札幌市ホームレス支援相談センター	7	7.1%
包括支援センター	6	6.1%
相談支援事業所	5	5.1%
若者サポートステーション	5	5.1%
民間企業	5	5.1%
スクールソーシャルワーカー	5	5.1%
札幌市各区福祉課	4	4.0%
就労継続支援B型移行支援	4	4.0%
訪問介護事業所	4	4.0%
NPO法人	3	3.0%
医療機関(他科)	3	3.0%
家庭児童相談室	1	1.0%
ひきこもり親の会	1	1.0%
高等学校	1	1.0%
札幌市精神保健福祉センター	1	1.0%
児童相談所	1	1.0%
札幌市生活就労支援センター	1	1.0%
計	99	100%

- 当年度、他支援機関と連携したのは計 258 件ある。上記の表のとおり、当センターより「他支援機関へケース相談等を行ったのが 159 件」、「他支援機関からのケース相談や紹介が 99 件」ある。
- 今後も、個々のケースに沿って適切な支援機関と連携していくことが、ひきこもり状態を脱するに繋がると考える。

(9) ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
令和3年度	10名
平成27年度～令和2年度	32名
計	42名

○当年度、ひきこもり相談やひきこもり外来から当施設併設のデイケア通所につながったケースは10名であり、これまでに42名がデイケア通所につながり、現在も通所中のケースも多い。

イ. ひきこもり外来状況

年 度	平成27-令和2年度	令和3年度	計
延べ回数	1, 129回	621回	1, 750回
新規ケース	88名	28名	116名

○当年度、ひきこもり相談からひきこもり外来につながったケースは28名であった。

○当年度、実人数として、ひきこもり外来を62名に対して行い、計621回の診察があった。診察回数はこれまでに一番多い。集中的な治療が必要なケースもあり、ひきこもりと精神障碍との関連も忘れてはならないことが分かる。

○外来に繋がった事により、『ひきこもり』状態から脱する一歩を踏み出したといえる。

○外来は、本人のみならず、父や母の同席や家族に対しての診察を行うこともある。

2. 支援ネットワーク構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ、講演会等の講師派遣、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。状況は以下のとおりである。

(1) 事業概要説明等

月	日	実施内容	備考
6	12	北海道新聞より取材（コロナ禍におけるひきこもり相談について）	電話
6	28	中小企業家同友会より問い合わせ（ひきこもり相談における就労について）	電話
8	4	札幌市厚別区生活保護課ケースワーカー来所（ケース検討）	来所
8	27	札幌市こども未来局より問い合わせ （令和2年度新規相談者年齢別の相談目的について）	電話
10	5	中小企業家同友会、就労困難者チームについて検討会	オンライン
12	7	中小企業家同友会、就職困難者支援団体、企業と四者での懇談会	オンライン

(2) ひきこもり出張無料相談会実施状況

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は毎月4回程度(平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ)13:30~16:00に実施した(1回あたり最大4件まで予約可)。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載、広報さっぽろ(誌面、地デジ、アプリ)、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。特に、広報誌(配布)への掲載は市民からの反響が大きかった。各回、申込状況に合わせて、相談員を調整した。開催日、件数は以下の通りである。

○新型コロナウイルスの影響により会場が借りられず9月まで中止し、10月から再開している。

○北海道新聞「さっぽろ10区」に掲載し周知宣伝した。掲載時期(月1回)2021年6月~2022年2月

5月		
日程	場所	相談件数
5月9日(水)	手稲区民センター→中止	-
5月22日(土)	札幌市ひきこもり地域支援センター→中止	-
5月26日(水)	中央区民センター→中止	-
5月30日(日)	東区民センター→中止	-

6月		
日程	場所	相談件数
6月9日(水)	南区民センター→中止	-
6月12日(土)	白石区民センター→中止	-
6月20日(日)	豊平区民センター→中止	-
6月30日(水)	清田区役所→中止	-

7月		
日程	場所	相談件数
7月4日(水)	西区民センター→中止	-
7月11日(土)	中央区民センター→中止	-
7月14日(水)	北区民センター→中止	-
7月28日(水)	厚別区民センター→中止	-

8月		
日程	場所	相談件数
8月11日(水)	東区民センター→中止	-
8月18日(水)	白石区民センター→中止	-
8月21日(土)	手稲区民センター→中止	-
8月29日(日)	南区民センター→中止	-

9月		
日程	場所	相談件数
9月8日(水)	豊平区民センター→中止	-
9月11日(土)	清田区民センター→中止	-
9月26日(日)	北区民センター→中止	-
9月29日(水)	八軒地区センター→中止	-

10月		
日程	場所	相談件数
10月13日(水)	中央区民センター	1件
10月16日(土)	東区民センター	2件
10月20日(日)	手稲区民センター	3件
10月31日(日)	厚別区民センター	0件

11月		
日程	場所	相談件数
11月7日(日)	白石区民センター	1件
11月17日(水)	豊平区民センター	1件
11月18日(木)	さっぽろ若者サポートステーションと合同説明会	1件

12月		
日程	場所	相談件数
12月8日(水)	清田区役所	1件
12月12日(日)	西区民センター	2件
12月18日(土)	北区民センター	3件

1月		
日程	場所	相談件数
1月15日(土)	中央区民センター	2件
1月30日(日)	手稲区民センター	4件

2月		
日程	場所	相談件数
2月9日(水)	東区民センター	2件
2月16日(水)	厚別南地区区民センター	1件
2月19日(土)	豊平区民センター	1件
2月27日(日)	清田区民センター	1件

※2月1日(火)手稲区民センターにて追加実施:1件

3月		
日程	場所	相談件数
3月9日(水)	南区民センター	2件
3月12日(土)	北区民センター	3件
3月23日(水)	西区民センター	2件
3月30日(水)	白石区民センター	0件

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
2	21 ～ 28	令和3年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「それぞれの個性で続けていくひきこもり相談」 インターネット配信期間：2/21(月)～2/28(月) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)106名、札幌市46名	※講師：コーディネーター4名

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1週間(24時間いつでも)閲覧できるよう工夫を凝らした。

(4) ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
6月 -2月		発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会 (令和3年6月～令和4年2月 計19回参加)	1名参加
7	16	第1回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会(オンライン)	1名参加
11	19	第2回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会(オンライン)	1名参加
2	3	第3回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会(オンライン) 子ども・若者支援セミナー「ヤングケアラー支援の取り組みと展望」	1名参加
3	10	第4回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会(書面会議)	-

(5) 講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
6	5	ひきこもりの暮らしを支えるライフライン 主催：NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	1名派遣
7	1	第71回社会を明るくする運動 第46回白石区民大会 「社会的ひきこもりと地域社会」	1名派遣
8	31	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会 「発達障がい特性を背景にもつひきこもりケースのチーム支援 Vol1」	1名派遣

(6) 外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
7	3 4	第57回社会福祉セミナー「ひきこもり」と社会福祉 ※オンライン研修	2名参加
8	2 1	ひきこもり親子公開対論 主催：NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加 ※当センター後援
8	3 1	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会 ※オンライン研修 「発達障がい特性を背景にもつひきこもりケースのチーム支援 Vol1」	1名参加
11	2 5 2 6	ひきこもり対策研修（厚生労働省こころの健康づくり対策事業） ※オンライン研修	2名参加
11	2 7 2 8	第15回KHJ全国大会 ※オンライン研修 主催：KHJ 全国ひきこもり家族会連合会	1名参加
1	2 5	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会 ※オンライン研修 「発達障がい特性を背景にもつひきこもりケースのチーム支援 Vol2」	1名参加
1 2	3 1 1	ひきこもり対策研修（厚生労働省こころの健康づくり対策事業） ※オンライン研修	2名参加
2	8	「ひきこもり支援センターにおける支援の質の向上及び平準化を目的とした職員の養成手法に関する研修事業」 ※オンライン研修	1名参加
2	2 4	令和3年度北海道困難を有する子ども・若者の支援連携研修会 ※オンライン研修	1名参加

(7) ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
3	26	ひきこもりサポーター養成研修 「当事者の体験から学ぶ」 オンライン開催 3/26(土) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)1名、札幌市5名	※講師：当事者1名 (当センター元相談者)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、ZOOMによるオンライン研修会とした。

※新型コロナウイルスの影響から、協議会は中止とした。※設置要綱 別紙1

(8) 居場所「よりどころ」(親の会・当事者会)への専門職の派遣

NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが札幌市より事業委託されている居場所「よりどころ」に「親の会」へ18回、「当事者の会」へ19回、相談員を派遣した。それぞれ祝日開催について1日ずつ派遣し、満遍なく専門職が関われるよう工夫した。また、「親の会」では月1回、「学習会」として、「親の接し方や声掛け、病気や障害について等」、当センターから参加者に向けて伝えた。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケース、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つとなっている。

3. 普及啓発

相談先の掲載、インタビュー協力、リーフレット送付等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
4	16	奈良県よりひきこもり地域支援センター相談員の雇用条件について (照会)	電話
5	19	厚生労働省調査票A提出	メール
7	1	2022年版「民生委員・児童委員手帳」関係機関・団体一覧の掲載	相談先掲載
8	28	ラジオ番組「さっぽろ耳寄り情報 (STV)」	相談先情報
9	21	「ひきこもり支援について」 A大学よりインタビュー	電話
10	13	「8050問題を抱える家族に対する相談支援のあり方について」 B大学からインタビュー	来所
10	28	北海道警察人身安全対策課より「引き出し屋」について問い合わせ	電話
10	29	ひきこもり地域支援センターにおける研修ニーズに関するアンケート調査 (厚生労働省社会福祉推進事業)	WEB回答
10	29	生活保護に関するアンケート (札幌市厚別区生活保護課)	メール
12	3	「社会的孤立状態にある人への支援における支援者の困難と工夫の実態」アンケート	WEB回答
12	28	「ひきこもり相談におけるメール相談と電話相談について」C大学より問い合わせ	書面回答
12	28	NPO法人OSDよりそいネットワーク アンケート (令和3年度厚生労働省補助事業 ひきこもり支援・孤立孤独問題対策)	WEB回答

○講演会や研修会などを活用しひきこもり本人および本人に向けたリーフレットを適宜配布した。

(2) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解の促進や相談先としての周知、支援団体や相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年 度	件 数	備 考
令和3年度	18,027件	
令和2年度	19,640件	
令和元年度	23,001件	
30年度	20,320件	
29年度	19,876件	
28年度	17,297件	
27年度	13,552件	
26年度	13,865件	
25年度	11,431件	
24年度	8,032件	
23年度	4,232件	
22年度	3,220件	
21年度	3,109件	(9ヶ月分)

○総閲覧数は昨年度に比べ減少しているものの、相談方法ページの閲覧が7,118件あり、昨年度よりも微増しており、相談者が相談先を探す方法として活用されているものと思われる。

